

Culib News (クリブニュース)

No.50 2006年10月10日 中京大学図書館発行

ことばの散歩—13—

“右”と“左”の不思議 —1—

図書館長 安村 仁志

「みぎ、ひだりをよく見て」と言ってみたり、「左右（さゆう）よく見て」と言ってみたり、どっちでもよさそうにいて右—左の世界は奥深いものです。どちらかに重きが置かれているのだろうか、仮にそうだとして歴史的に不変なのだろうか、また世界共通なのだろうか、といった疑問がわいてきます。

“左（さ）、ひだり”などで始まる語、終わる語はどのくらいあるでしょうか——手元の『大辞林』（三省堂）でみると、始まるのが168、終わるのが15もあるのです。“右（う）、みぎ”などで始まる語は117、終わる語は18です。左の方が多いのでそちらから見ていくことにします。

私なりに意味をいくつかのグループに分けてみました。(1)方角を表わすもの、(2)右と対照的に使われるもの、(3)どちらかと言えば右より優位にあることを示すもの、(4)逆に、右と比べて劣るような意味をもつもの、(5)政治的ニュアンスを示すもの、(6)その他です。

順に見ていきます。最初の方角を表わすものは、「左京（区）」などで、単に左というだけではなく地理的意味を持ちます。ただ、この場合はどちらからみるかが大きなポイントで、京都市左京区は北が上になる地図で見ると、右の方（東側）に広がっています（右京区は左＝西の方）。これは、町の真ん中に位置する御所の右側、左側なのですが、天皇は南の方に向かって座ることになっていたため、その左手「左京」は東側、つまり北が上の地図では右になるのです。これに準じるのが、「左近の桜」—「右近の橘」で、紫宸殿から見て（つまり天皇から見て）左側にあるのが「左近の桜」です（したがって建物に向っては右側に位置する）。

これに対し、野球の「左翼（レフト）」はホーム・ベースからみて左側ですが、球場がどちらの方角を向いているかは決まりがないでしょうから、方角とは無関係ということで、二番目の「右との対照での左」に近いものでしょう。「左側」、「左手」、「左向き」、「左四つ」、「左心房」、「左心室」、「左舷」といった語で、右との対比において特に軽重がないものです。

ところが、「右より優位にある左」という意味合いを含んだものが三つ目で、「左大臣」がこれにあたります。古代律令制での太政官の官名の一つで、太政大臣の下、右大臣の上に位置し、太政官の政務を統括しました。「左大弁」、「左衛門府」、「左兵衛府」、「左近衛府」などの“左の司”も右職より上に位置していました。日本の律令制は、7世紀後期（飛鳥時代後期）から10世紀頃まで実施されたようですが、「左」が「右」より上でありました。中国の隋・唐の律令制の影響を受けたものでしょうが、中国では「右」の方に重きが置かれていたといわれています。それは中国で官位の降格を指すことを「左遷」といった

ことに表れています。「左降」という語もあります。

その関連で、四番目の意味合い、すなわち「右に比べて劣るような意味」を持つ語がかなりあります。中国のそうした考え方から生まれた語としては「左言」（道理に反したことば）、「左計」（正しくない計画）という語があります。「左道（さとう、さどう）」も“正しくない道”、“邪道”などの意味をもちます。「左様（ひだりざま）」も同じです。このほか今日も日常的に使う語として「左前」があります。着物の着方を表わす意味以外に、経済状態が悪くなってゆくこと。落ち目になることを表わしますが、「左縄」（役に立たないもののたとえとしても使われる）、よくない言い方ですが「左巻き」などがこれに類するといえるでしょう。衣服に関しては「左衽（さじん）」ということばがあります。左前のことで、相手から見て左の衽（おくみ）を上にして衣服を着ることで、死者の装束で不吉のイメージがあります。中国では、古来漢民族の服装は右衽、遊牧騎馬民族などの服装（胡服）は左衽とされていました（右手で矢をつがい、弦を引いて放つには左衽の方が合理的だったと言われます）。日本では古代は左衽（高松塚古墳の「明日香婦人」は「左前」に描かれているそうで、古墳時代の4世紀から6世紀頃までは「左前」に着ていた）で、一説によると唐に入った胡服を真似たらしいといわれます。ところが、その後奈良時代に入って大宝律令（701年）で上層階級、養老律令（719年）で庶民の服装が右衽に定められました。右の方が上というのは、「右に出るものはいない」、「右腕」といった語（句）にも現れています。いろいろ調べていましたら、ベラルーシの興味深い表現を知りました。「左」ということばに「裏」とか「副」とかいう意味があるそうで、「左の職業」といえば「副業」「アルバイト」「非合法の仕事」、服で「左側」というと「裏地」、「左の車」は白タクのこと、「左足でする」とは「いいかげんに何かすること」などです。「左団扇」という語は、左手でゆっくりと団扇を使うことから転じて、安楽な生活を送ることを意味します。一見、左がいいイメージにみえますが、右利きが多いことからすると左手で団扇をあおぐのは何となくぎこちなく、うまく風が起こらないのですが、それでもいいといった余裕から生まれたことばのようですから、左がいいというわけではありません。

五番目が政治的ニュアンスで、「左翼」、「左派」、「左傾」といった語が浮かびます。なぜ左が革新的、急進的なのかということは、フランス革命期の国民議会で議長席から見て、左側の席に急進派のジャコバン派が席を占めたことに由来するとはよく知られているところです。

その他として「さようなら」の元の語「左様」をあげてみます。「然様」とも書きますが、「左」も「然」も「そう」の古い形「さ」に対する当て字です。この「さ」に、「様（さま、様子）」がついて「さやう」という表現ができ、「その様に」、「その通り」とか「それでは」とかいう意味になりました。ですから、この場合「左」には意味がありません。縦書き文化の日本語としては「左の様」ではおかしいことになってますが、これで謎が解けました。もう一つ、酒好きの人のことを表わす「左党」を挙げます。なぜ酒飲みのことをそのようにいうかといえば、盃を左手で持つからだと言われますが、なぜそうなのかには面白い説があります。浪人などの武士が居酒屋で独酌をするようになって、手酌ですから徳利を右手に、猪口を左手に持って酒を注ぐことになったというものです。もう一つはシャレです。大工や抗夫は右手に金槌を持って、左手の鑿（のみ）を打ちます。左手は「ノミ手」で、それが「飲み手」になったというものです。左党が酒飲みだからということで、下戸は「右党」ともなりました。

左様なことで今回は終わり。次回は「右」です。右を表わす right にはなぜ「正しい」、「権利」の意味があるのでしょうか、西欧語から考えます。最後は関西弁で、「ほな、さいなら」。

児童文学の旅(1)

— A. A. ミルン, イギリス・ハートフィールド村 —

原 昌

1973年春、出版社から一通の手紙をもらった。イギリスの児童文学作家 A. A. ミルンの『自伝』を訳してほしいとの文面であった。そのころ、わたしは学会誌などで、ミルンのことを発表していたことや、某研究者の推薦による依頼であった。

原文は320頁の大著であったが、梅沢時子さんとの共訳で引き受けたのである。

その年の夏、ミルンの生涯を辿ろうとイギリスへの旅に出た。それはまた、わたしにとって結婚していく娘のための記念の旅でもあった。ロンドン郊外のミルンの生誕地、7年間在学したウェストミンスター・スクール、進学したケンブリッジ・トリニティ・カレッジ、卒業後作家の道を選んで下宿したブーベリー街、父からももらった320ポンドが底をつき安い下宿を求めて移ったウェリントン・スクエア、やがて結婚し息子クリストファーが生まれたマロード街などを訪れたのである。これは『自伝』に添った模索の旅であった。

そして最後の日に訪れたのが、「くまのプーさん」物語の舞台となったハートフィールド村である。ロンドンから列車で南へ一時間ばかりしてタンブリッジ・ウェルズの町に着く。そこから一日数本しかないバスに乗って、8マイルばかり田園を走ると、サセックスのハートフィールド村のちいさなバス停に着く。ここは自然ゆたかなところで、ミルンが週末や夏の休暇を妻や子とともに過ごした地である。はるかに丘や森や草原が開け、近くに小沼や小川があって、林道には夏の終わりのやわらかい光と、こもれびがいっぱい溢れていた。まさに黄金の午後であった。

わたしはまずミルンの〈夏の家〉の場所を尋ねるために、バス停近くのセント・メアリー教会に入った。牧師さんも、誰もいなかった。訪問帳があったので、ミルンの家を訪ねてきたことと、日本の住所を記しておいた。しばらく家を探しあぐねていたが、草刈り人に家のたたずまいの写真をみせて、どうにか探し当てたのである。

ところで、「くまのプーさん」物語は、息子クリストファーのために書かれたもので、登場人物たちは子ども部屋からやってきたぬいぐるみたちであった。『自伝』によれば、作者が妻や子の協力をえて、生命を吹き込み、性格化したのである。そして当時『パンチ』誌に挿絵を描いていた E. シェパードが「生きたモデルをもとに動物たちを絵にした」のだという。

わたしは林道を歩きながら、よく似た風景が物語のなかにあることに気づいた。それに、いかに現実の場所がみごとに溶けこんでいるかに驚いたのである。物語に出でてくる六本松やカシの木、プーたちが遊んだ小川と橋、ふくろうの住む百町森など、ファンタジーのなかに実在の場所がいくつもあった。

そんな感銘を受けながら、美しい風景をふり返りつつ、5時半の最終バスに乗り遅れまいと、娘とともにバス停に急いだ記憶である。

数日後、日本に帰国したが、わたしは思いがけずイギリスからの一通の手紙を受けとった。その手紙は、教会の牧師さんからで、「ミルンとは村道でよく出会ったが、かれは村人たちとは溶けこまなかった。この教会には一度も来なかった」と記されていた。幼少時、「バット先生の幼稚園につくまでには、(讚美歌) 詩編23番を暗記していた」と『自伝』に記していたが、ミルンにとってキリスト教とはいったい何であったか、わたしにはいまだに解けないでいる。

やがてわたしの訳書は、原題が *Autobiography; It's Too Late* (自伝・もうおそすぎる) だったが、幼少時のことを回想した「We were very happy.」を抜きとって、『ミルン自伝・ぼくたちは幸福だった』の題名で、予定より2年遅れて研究社より出版された。(中京大学名誉教授)

新着図書セレクト

* 6～8月の新着図書の中から、お薦めの本をご紹介します *



『あの～、それは違法行為ですけど…：知らないうちにあなたは犯罪者?』（牧野二郎著・シーアンドアール研究所）

請求記号：007.3/Ma 35, 所蔵：TL

ネット時代に知らないでは済まされない。

犯罪者にならないために知っておくべき、目からウロコの法律の知恵袋。



『センセイの書斎：イラストルポ「本」のある仕事場』（内澤句子文・イラストレーション・幻戯書房）

請求記号：910.26/U 25, 所蔵：LSC, TL

あの作家、この研究者の書斎が見たい！

細密なイラストと文章で明らかにする、31の「本が生まれる場所」。

請求記号	タイトル・著者・出版社	所蔵
007.35/V 82	『Google 誕生：ガレージで生まれたサーチ・モンスター』（デビッド・ヴァイス、マーク・マルシード著；田村理香訳・イースト・プレス）	LSC TL
022.57/Y 92	『古典籍の装幀と造本』（吉野敏武著・印刷学会出版部）	NL
049/Y 16	『ウソ!』（谷島一嘉著・アーティストハウスパブリッシャーズ） 宇宙医学の権威が「今」を暴いた、教科書や新聞ではゼツタイ書けない本当のお話！	TL
080/C 64/1847	『証言の心理学：記憶を信じる、記憶を疑う』（高木光太郎著・中央公論新社） 興味深い実例を交え、心理学研究の最前線をわかりやすく説明する。	LSC TL
080/I 95/4-1024	『小説の読み書き』（佐藤正午著・岩波書店） 小説の魅力が倍增するユニークな文章読本。	LSC TL
159/P 66	『ハイ・コンセプト「新しいこと」を考え出す人の時代』（ダニエル・ピンク著；大前研一訳・三笠書房）	LSC TL
159/Se 45	『結論で読む人生論：トルストイから江原啓之まで』（勢古浩爾著・草思社） 古今東西の主要な人生論を総覧した一冊。	TL
219.9/Ta 82	『ざわざわの沖縄戦：サトウキビ畑の慟哭』（田村洋三著・光人社）	TL
268/A 96	『ナスカ地上絵の謎：砂漠からの永遠のメッセージ』（アンソニー・F・アヴェニニ著；武井摩利訳・創元社）	TL

請求記号	タイトル・著者・出版社	所蔵
288.1/N 89	『難読姓氏・地名大事典』(丹羽基二著・新人物往来社) あっと驚く姓氏や地名を読み解く、ユニークな事典。	NL TL
289.3/G 39	『ゴーン家の家訓』(リタ・ゴーン著;小林禮子訳・集英社) 名経営者を支える妻との「家訓」とは?	TL
316.4/I 89	『9・11あの日ニューヨークは…』(伊藤充宏著・静岡新聞社)	LSC
323.14/I 27	『敗れる前に目覚めよ:平和憲法が危ない』(飯室勝彦著・花伝社)	LL
336.4/W 21	『トヨタ流マネジメント力:最強企業「人づくり」の真髄』(若松義人著・経済界) 最強企業は「上司」をこう育て、上司は「できる部下」をこうつくる。	LSC
371.4/Ta 88	『男の子の脳、女の子の脳:こんなにちがう見え方、聞こえ方、学び方』 (レナード・サックス著;谷川漣訳・草思社)	TL
493.7/I 95	『狂気の偽装:精神科医の臨床報告』(岩波明著・新潮社)	LSC
495.04/U 14	『身体知:身体が教えてくれること』(内田樹、三砂ちづる著・バジリコ)	LSC
498.5/Sh 39	『スローフードな日本!』(島村菜津著・新潮社)	TL
519.07/Ka 56	『環境の仕事に就く!』(ソニー・マガジズ)	TL
548.3/Ta 33	『ロボットの天才』(高橋智隆著・メディアファクトリー) ロボット業界の最先端を走り、米TIME誌でも絶賛された男の思考回路を公開。	LSC
591/P 43	『パーソナルファイナンス入門:私たちの生活とお金』 (榊原茂樹 [ほか] 編著・中央経済社)	TL
596.04/Ka 67/2	『美味しんぼ塾:食を愛する全ての人に贈る痛快講義』(雁屋哲著・小学館)	TL
619.8/Ta 55	『お茶は世界をかけめぐる』(高宇政光著・筑摩書房)	LSC TL
673.93/Sh 99	『こんな働き方があったのか!』(就職情報研究所編・NTT出版)	TL
704/Mu 43	『芸術起業論』(村上隆著・幻冬舎)	TL
706.9/N 71	『日本全国いちおしユニーク美術館・文学館』 (新人物往来社編・新人物往来社)	TL
810/A 49	『世にも美しい日本語入門』(安野光雅、藤原正彦著・筑摩書房) 若い頃から名文に親しむ事の大切さを、熱く語りあう。	TL
816.6/Sh 69	『きちんとした手紙・はがきのマナー & 文例集』 (新星出版社編集部編・新星出版社)	TL
829.1/N 32	『イメージでつかむ!生活のなかの韓国語』(中川亜紀子著・アルク)	TL
910.268/Ka 99	『越境する「僕」:村上春樹、翻訳文体と語り手』(風丸良彦著・試論社) 村上春樹を縦横に読み解く最新の評論集!	LSC
910.268/N 58	『孫が読む漱石』(夏日房之介著・実業之日本社)	LSC
914.6/H 52	『自分自身への審問』(辺見庸著・毎日新聞社)	LSC

※所蔵の【NL】は名古屋図書館、【LSC】はライブラリー・サービス・センター
【LL】は法学文献センター、【TL】は豊田図書館です。

図書と私

文学部 日本文学科3年 竹中 美加

何に対してもやる気が起こらず、途方にくれたことはありませんか？

私の場合は高校3年生の夏、ちょうど大学受験の追い込みの時期でした。その時は受験勉強に疲れていて、何もかもを放り出して逃げてしまいたいと、ネガティブなことばかり考えて、塞ぎ込んでいました。毎日図書館に通って参考書を開けて見るものの、結局やる気が起こらず、ぼんやりとしているだけ。今では笑ってしまえる話ですが、世の中から数学というものを消してしまいたい！と本気で考えていたこともあります。そんな状態の私を救ってくれたのは一冊の本でした。

『十二番目の天使』（著：オグ・マンディーノ）。この物語の中には、どんなハンディを持っていようと決して諦めない少年がいます。この少年のいつも前に向かってひたむきに頑張る姿に、私は心を打たれました。と同時に、自分の悩みがいかにか小さなものかということを知りました。ここで頑張らなくて、いつ頑張るんだという気持ちを、思い出させてくれたのです。単純かもしれませんが、読み終えた後には、何事もなかったかのように参考書に向かう自分がいました。それからというもの、途中で挫折することは幾度となくありましたが、その度にこの物語を読んで乗り切り、今では最後までめげずに取り組むことができた、と胸を張って言えます。結局のところ私は一冊の本に助けられたのです。

お気に入りの図書に会う。これは実はとても大切なことなのではないでしょうか。なんとなく暇な時、心が病んで立ち止まりたくなった時に、ふと手に取ってみる。読んでいる途中で、きっと何かを発見し、何かを感じると思います。その見つけたものや気持ちは、案外自分が忘れかけていた重要なものなのかもしれません。絵本でも、小説でも、詩集や写真集だっにかまいません。自分の好きな本を探してみる、こんな楽しいことをやらない手はありません。家にある本棚に目を向けてみたり、近くにある図書館を訪ねたり、方法はいろいろあります。自分のお気に入りの、いつでも探せて、いつでも読める環境を、無駄にしないで欲しいと思っています。



ベストリーダー (2005年9月～2006年8月)

図書館で多く貸し出された資料を紹介します。

【名古屋図書館】 閲覧室の改修工事のため、臨時休館等でご迷惑をおかけしました。名古屋図書館は60万冊の蔵書数を誇ります。どうぞ気軽にご利用ください。

書名	著者名	請求記号
学習心理学	梅岡義貴・大山正編著	141.33/U73
学習 (現代心理学入門：8)	メドニック著	141.33/Me14
認知心理学	U. ナイサー著	141.5/N62
紫式部集評釈	竹内美千代著	915.35/Ta67
人を動かす 第2版	D. カーネギー著	159/C19

【豊田図書館】 社会学・情報科学・生命システム・体育学部関連の資料が充実しています。

書名	著者名	請求記号
東京タワー：オカンとボクと、時々、オトン	リリー・フランキー著	913.6/R47
容疑者 X の献身	東野圭吾著	913.6/H55
博士の愛した数式	小川洋子著	913.6/O24
空中ブランコ	奥田英朗著	913.6/O54
リアル鬼ごっこ	山田悠介著	913.6/Y19

【LSC】 すべて開架式で、英語教材、基礎的な学習図書、小説が充実しています。

書名	著者名	請求記号
Two Lives	Helen Naylor	837.7/C14/T
Just good friends	Penny Hancock	837.7/C14/J
Love story 2nd ed.	Erich Segal	837.7/O93/L

※上記3タイトルの他にも『Oxford Bookworms library』『Cambridge English readers』等の英語教材シリーズの利用が多数みられました。

夜のピクニック	恩田陸著	913.6/O65
野ブタ。をプロデュース	白岩玄著	913.6/Sh82
チョコレート工場の秘密	ロアルド・ダール著	933/D13
親指さがし	山田悠介著	913.6/Y19

【法学文献センター】 法学部棟に設置された、政治・法律専門の図書館です。

書名	著者名	請求記号
裁判員制度	丸太隆著	327.67/Ma58
裁判員制度と国民の司法参加	鯨越溢弘著	327.67/N47
憲法 新版補訂版	芦辺信喜著	323.14/A92
もしも裁判員に選ばれたら	四宮啓 [ほか] 著	327.67/Sh67

図書館カレンダー

10

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

3

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

通常開館時間

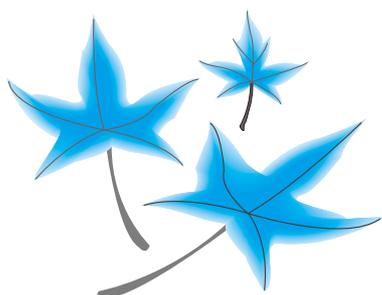
	平日	土曜日
名古屋図書館	9:00～19:00	9:00～12:30
豊田図書館	9:00～20:00	9:00～17:00
ライブラリーサービスセンター	9:00～22:00	9:00～17:00
法学文献センター	9:00～19:00	9:00～12:30

無印は通常開館

■ は休館日

□ の開館時間 (平日 9:00～16:00)

○ の開館時間 (平日 9:00～17:00 土曜日 9:00～12:30)



発行 中京大学図書館

〒466-8666

名古屋市昭和区八事本町101-2

TEL (052)-835-7157

<http://www.chukyo-u.ac.jp/tosho/>

印刷 株式会社 荒川印刷